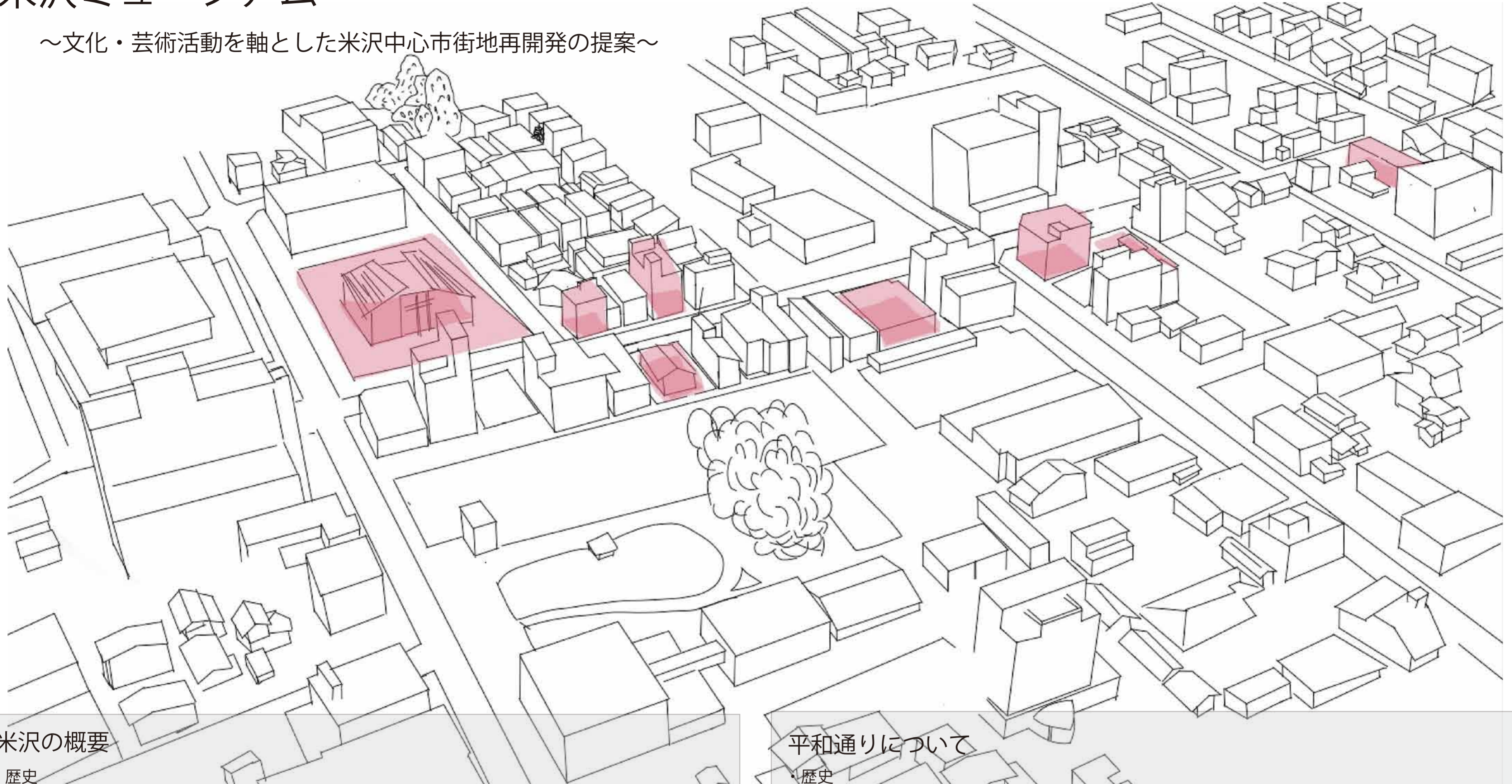


米沢ミュージアム

～文化・芸術活動を軸とした米沢中心市街地再開発の提案～



米沢の概要

・歴史

米沢の歴史は長く、原始・古代の昔から開発が進んだとされる地域である。長い歴史の中でも、江戸時代の直江兼続・上杉鷹山は現在の米沢に大きな影響を与えた人物である。直江兼続は現在の米沢市街の基盤にもなっている城下町の拡大に取り組み、上杉鷹山によって行われた藩政改革は養蚕や米沢織物の特産物の発展と大俵約を行い藩財政と人々の生活の立て直しに貢献した。学問・教育にも力を入れ、官僚や海軍将官をはじめ様々な分野に多くの人材を輩出したことでも有名である。

・気候

山形県の最南端に位置しており、山形盆地となっている。夏は高温多湿で暑く、冬は寒さが厳しく特別豪雪地帯に指定されている。市域の南側には吾妻連邦があり、四季折々の雄大な自然景観が広がる自然豊かな街でもある。

平和通りについて

・歴史

大正時代におきた火災をきっかけにまちの再編成が行われ、官僚庁が集まり、大正時代末頃には官僚庁街となった。それに伴い料亭や居酒屋が集まっていく。昭和40年代になると、官公庁が金池地域に移転したことで、その跡地に大型百貨店やショッピングセンターが開店し、昭和50年代にはアーケードも設置され、米沢一の商店街となった。しかし、昭和末頃から次々と大型店が閉店・移転したことにより、以前よりも賑わいが少なくなった。

・現状

現在は、料亭・居酒屋が集まる米沢唯一の飲み屋街として機能している。「まちの広場」や米沢市立図書館などの公共施設も整備され、市民の文化活動を支えているエリアでもある。しかし雪の影響を受け老朽化したアーケードが撤去され、商店街としての街並みが薄れている。

平和通りの問題点

- ・商店街として賑わっていた時期に比べ、
- ・昼夜で営業しているお店の数に差があり、夜は賑わいを感じるがお昼は人足が少なく、シャッターが目立つため寂れた印象
- ・通りに面する空き家・店舗が目立つ

ヒアリング調査の結果

- ・図書館は立派だが、周辺環境との差を感じる
- ・飲み屋街の中に図書館をつくることを市民は反対していた

米沢市まちづくり総合計画より

学びを活かせるの拡充

- ・市民が学習で得た知識や経験、技能を小・中・高等学校で生かすことができるように学校と市民をつなぐ仕組みを作る
- ・多様な文化芸術と歴史・文化が息づき、豊かな心を育む地域づくりの推進
- ・文化芸術の発信や交流活動を推進し、文化芸術活動の活性化を図る必要がある

誰もが元気で豊かに暮らせるまちづくりの推進

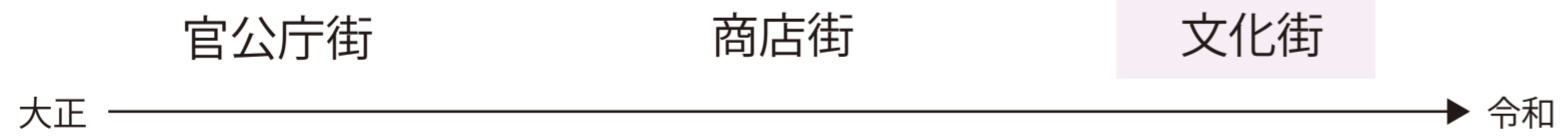
- ・「歩く」ことをきっかけにした健康づくりを推進

秩序ある土地利用と景観形成の推進

- ・市街地の空き地や空き家・空き店舗等を有効活用したまちなか居住の推進

賑わいを再生するには・・・

今までの通りにはない価値を生み出す必要がある。「芸術・文化活動」を中心としたまちづくりで市街地の活性化を目指す。



アーティストインレジデンス

アーティストが一定期間ある土地に滞在し、常時とは異なる文化環境で作品制作やリサーチ活動を行うこと。「作家滞在型制作」とも呼ばれている。種類は多種多様で、ある種のコンペティションを通過した作家をサポートするプログラムから、ゲストハウスなどを運営する個人や小規模な民間団体が宿に作家を優待し、宿泊条件としてその場所での文化活動や成果報告を義務付ける「マイクロレジデンス」などがある。

ターゲット

アーティストとして活動又は
アーティストを目指して活動している若者

米沢でアーティストインレジデンスをするメリット

- ・四季折々の自然が豊か
- ・都会に比べ活動費が安く、既存又は新設する文化施設での展示・発表することが比較的容易である

平和通り沿いの店舗の分布図



△昼に営業している店舗



△夜に営業している店舗



△空き地・空き店舗

現在

文化街形成のきっかけとなる美術館を建てる



空き家を利用し、アーティストが活動できるアトリエをリノベーション



アーティストが制作活動に集中できるように空き家をリノベーションし、ゲストハウスを建てる



市役所の観光・まちづくり系の部署を貸テナントに併設

2040年頃



空き店舗を音楽の練習ができるようなスタジオにリノベーション



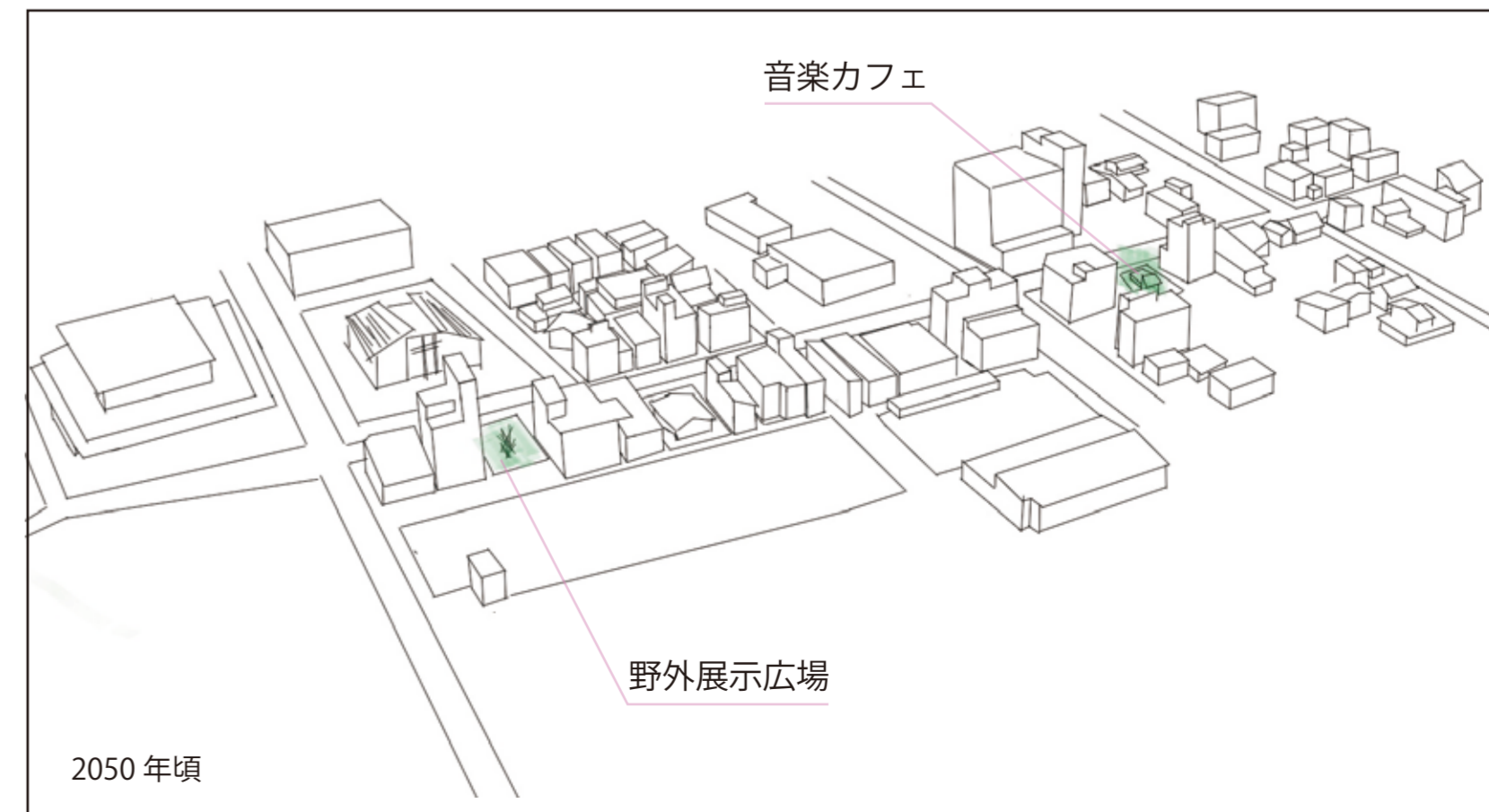
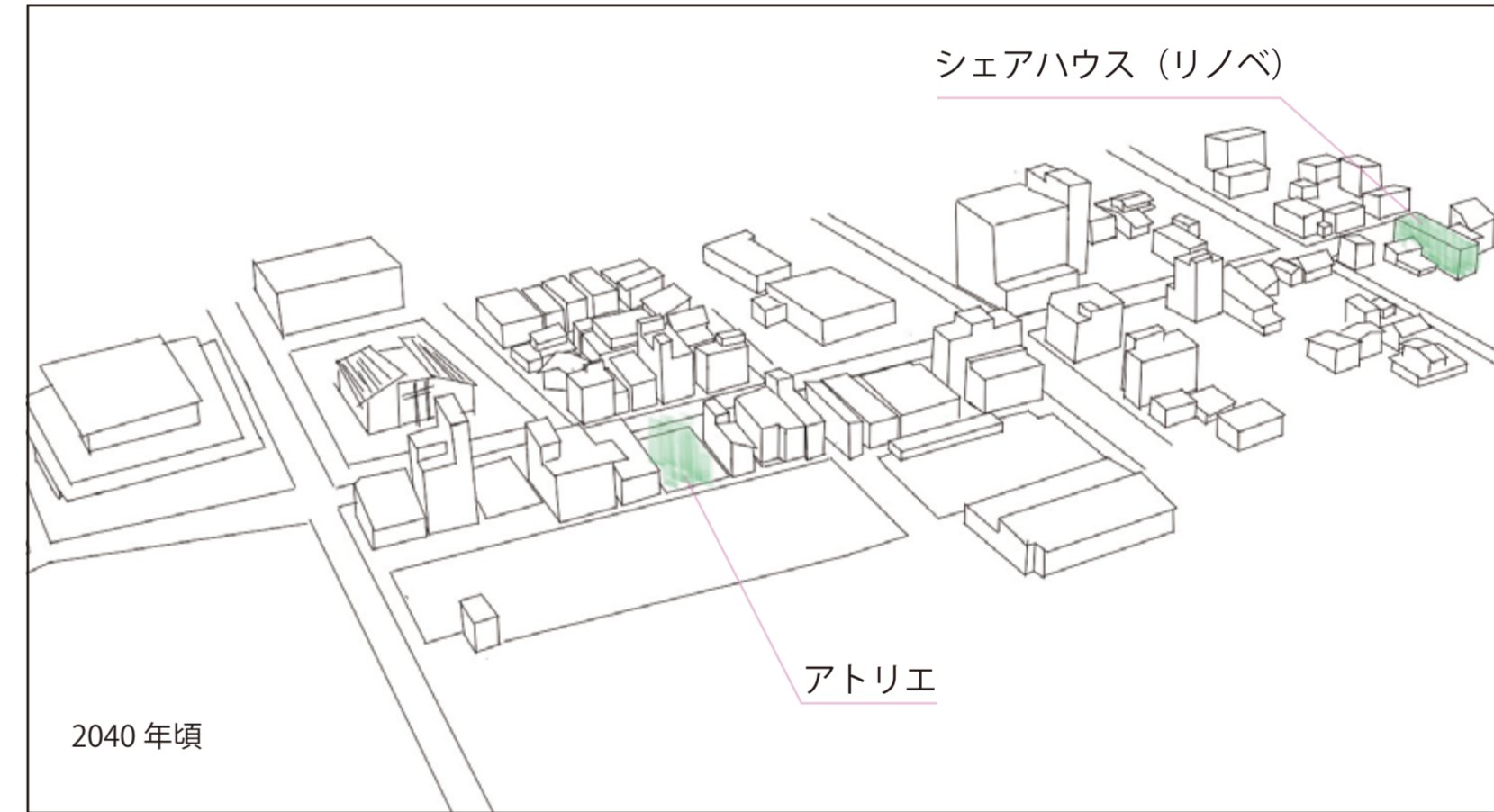
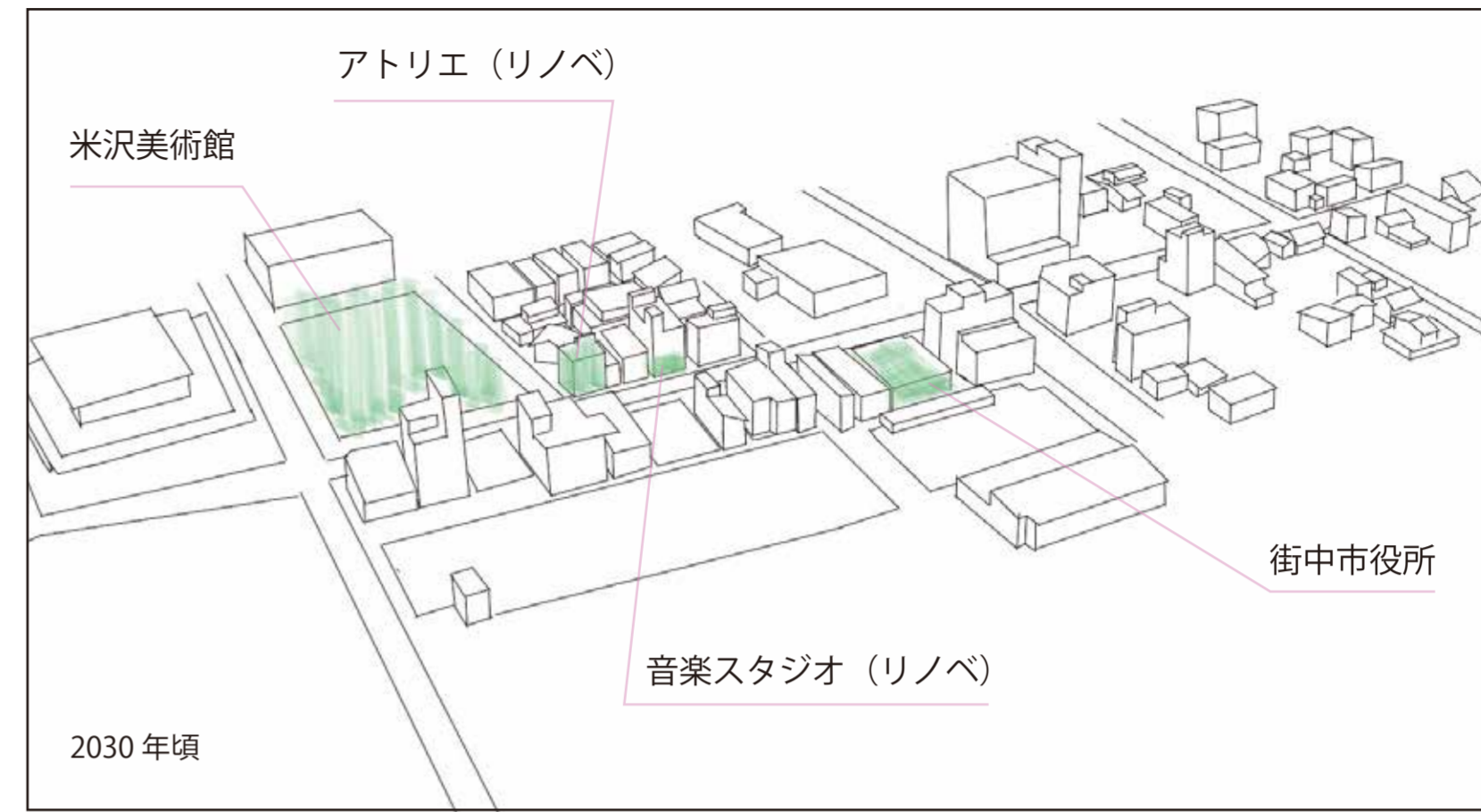
アーティストと市民が利用できるアトリエを新設



生で演奏が聞けるカフェが開店
音楽と芸術が好きな夫妻が運営し、住宅兼店舗として新設

2050年頃

平和通りの文化街計画の変遷イメージ



米沢美術館

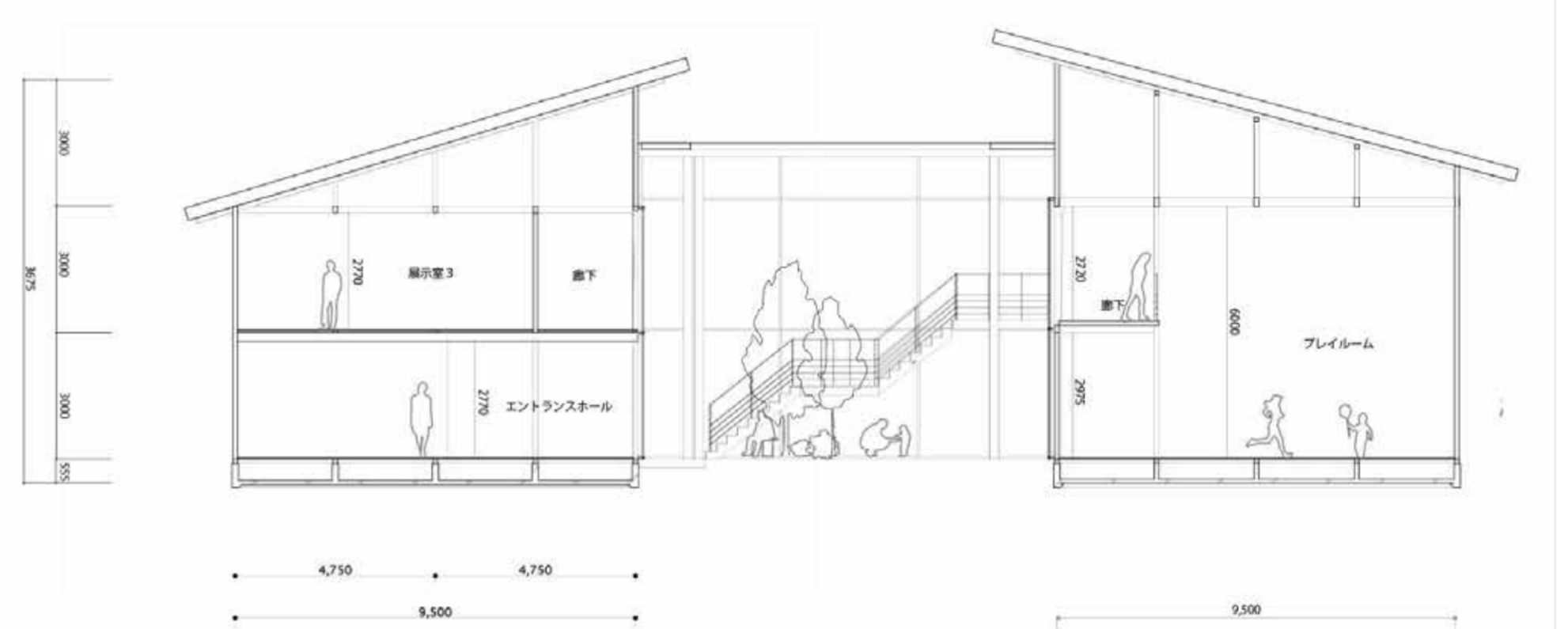


コンセプト

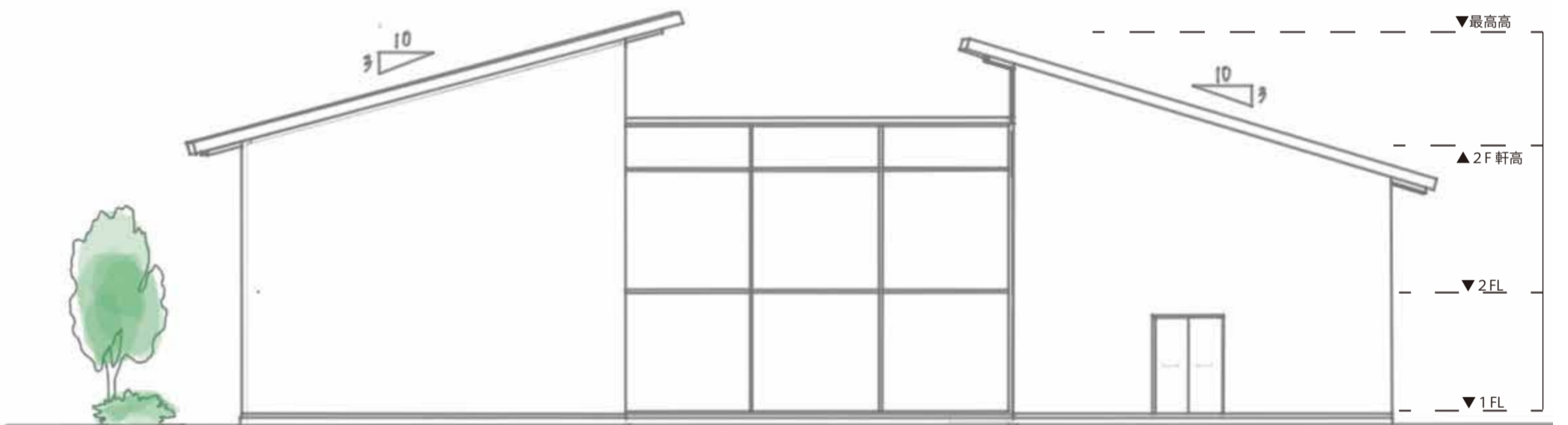
芸術を体感できる憩いの美術館

見るという動作に着目して、絵だけでなく、映像、人、自然など様々な作品を見ることで芸術をより体感できる美術館を目指した。そのため、自分が思いがけず作品になることもあるだろう。また、冬季でも利用できる中庭、プレイルームを併設し、冬でも豊かに過ごせる市民の憩いの場としての役割も担っている。商業目的の商店街から、文化ストリートへと変遷していくきっかけ・拠点の施設として機能することが目的。美術館のない本市において、市民の芸術・文化活動欲を促す施設としても期待できるだろう。

- 敷地面積 2852 m²
- 建築面積 797.5 m²
- 各床面積 1F: 522.5 m²
2F: 434.13 m²
- 延べ床面積 956.63 m²
- 構造 木造



断面図 (1/100)



北側 立面図 (1/200)

デザインについて

立派なプロポーションを持っている図書館と小規模な平和通りの建物の中和的存在となる外観。



米沢市立図書館

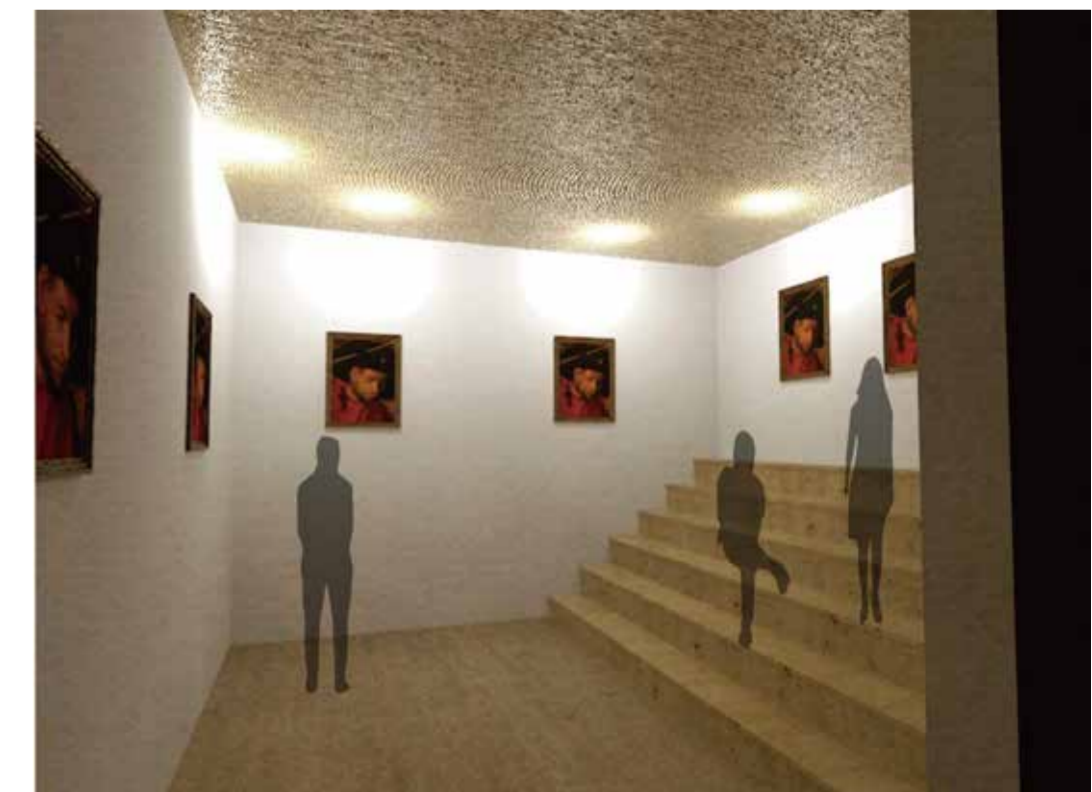


平和通り

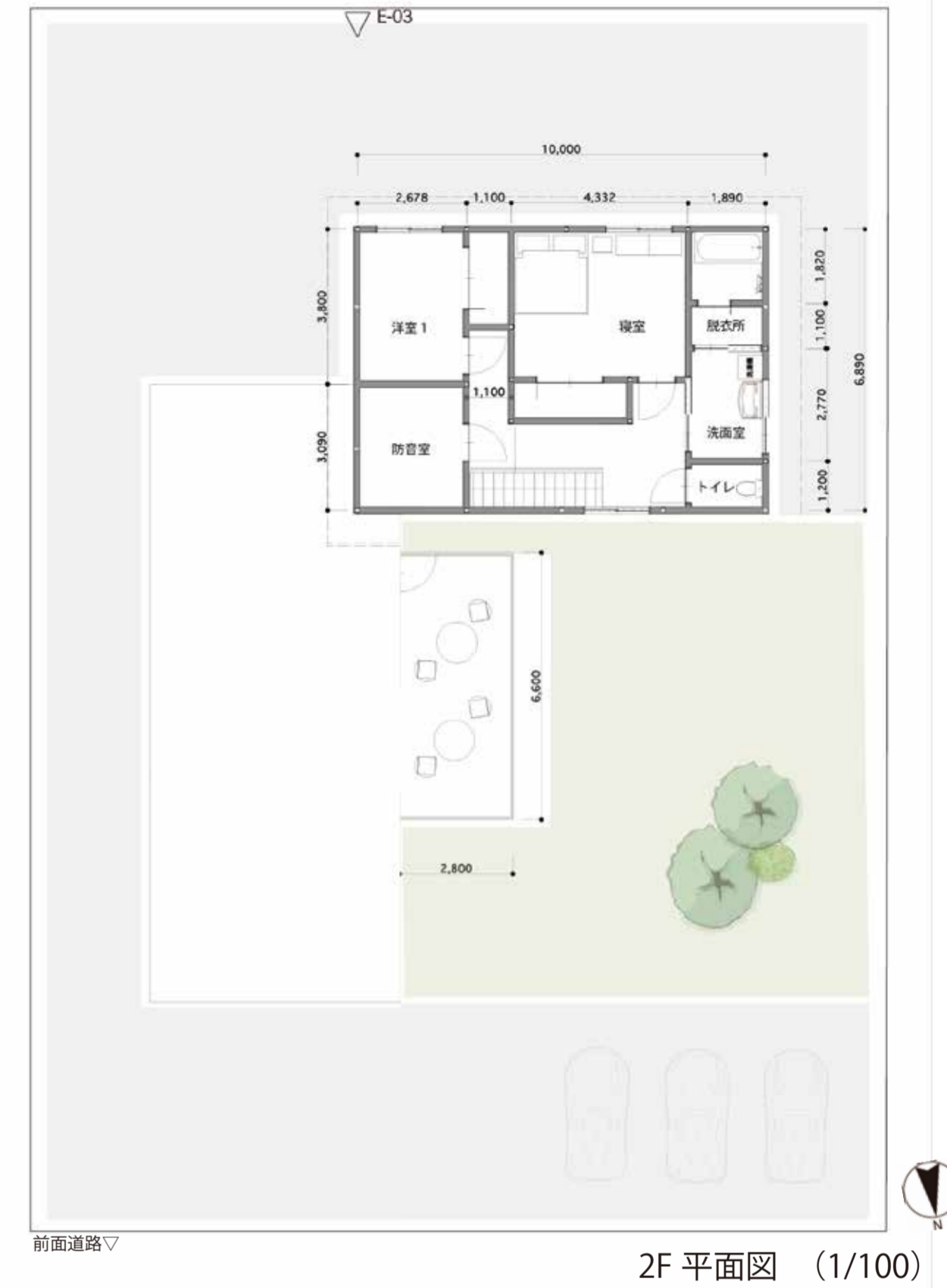
何を見る・・・？



▽プレイルーム ▷中庭 ▷▷展示室3



音楽カフェ（店舗兼用住宅）

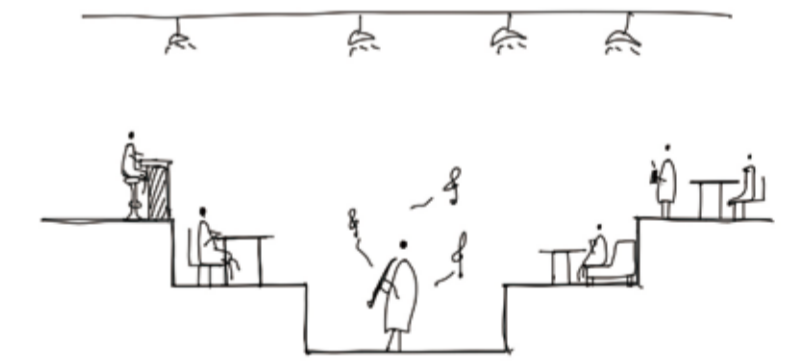


コンセプト 非日常的な音楽体験を味わえるカフェ

音楽を聴くには大きなコンサートホール、ライブハウス、近年は映像を通して聴くなど、多くの方法がある。しかし、楽器から直接奏でられる音は媒体を通して聴く音とは随分印象に強く残るだろう。また、生の演奏を直接聴くには、コンサートに行く必要があるが、ハードルが高くて行けないという人も少なからずいるのではないだろうか。ここではカフェに行くついでに生の演奏が聞ける、気軽に音楽を楽しめる場所となるに違いない。または、音楽を聞いて欲しいという人が訪れ、数々の音が奏でられるかもしれない。忙しい日常から少し離れて、音に包まれる特別な時間が過ごせる場所となるだろう。

客席とステージ

アットホームな店内でありつつも、特別感を味わえるような空間にするため、コンサートホールがイメージできるように、客席のレベルをそれぞれ変化させる。



- 敷地面積 630 m²
- 建築面積 156.9 m²
- 床面積
 - 1F : 143.28 m²
 - 2F : 156.9 m²
- 延べ床面積 300.18 m²
- 構造 木造

